



第3号  
平成21年 6月 30日発行  
社会福祉法人兵庫県社会福祉事業団  
おおぞらのいえ  
〒651-2181  
神戸市西区曙町1070  
TEL (078) 927-2727 (代)  
FAX (078) 925-9253



### スタッフしようかい



新年度を迎え、新しいメンバーが加わり  
ました。気分新たに力を合わせて  
頑張ります！

#### 支援員



白鯛美帆

4月から社会人になりました。  
日々、子ども達からパワーをも  
らい笑顔いっぱい頑張ります。



中尾有里佳

4月から社会人1年生になり  
ました。分からない事ばかりで  
すが、子ども達と一緒に元気いっ  
ぱい頑張っていきたいと思いま  
す。



森口明子

通算12年の幼稚園教諭経験を  
活かしつつ、子ども達と共に成  
長していきたいアラフォーの新  
人です。よろしくお願いいたし  
ます。



栢橋久実代

4月から勤務しています。自  
宅はすぐ近く、通勤は歩いても  
15分です。今までは保育園に勤  
めていました。笑顔で頑張りま  
す！



池尻真知子

2月から勤務しています。子  
ども達と一緒に楽しい時間を過  
ごして頑張りたいです。よろし  
くお願いします。



横山 恵

4月から勤務しています。子  
どもとサッカーが大好きです。  
子ども達のパワーに負けず、頑  
張りたいです。



伊藤敬子

私のストレス解消は、岩盤浴  
に行くことカラオケに行くこ  
と。そこでリフレッシュして仕  
事も頑張っていければと思っ  
ています。



#### 児童サービス

#### 介助員



### 編集後記

皆様のあたたかいご支援のもと、「おおぞ  
らのいえ」も無事開設2年目を迎えること  
ができました。玄関先には先日、名前に困  
んだ鮮やかなスカイプルの看板が設置さ  
れました。今までは、小児病棟との間で迷  
われる方もいらっしたようですが、こ  
れからはこの看板を目印に、是非おおぞら  
のいえにお越し下さい。元気な子どもたち  
がお待ちしています。



### 子どもたちは今

肢体不自由児療護施設 おおぞらのいえ

所長 松浦 剛



木々の緑が美しい季節です。天気予報  
ではもうすぐ入梅とのこと。今年は、例  
年になく降雨量が少ないようです。それ  
でも周辺の田では苗が植えられてゆきま  
す。“風流の初めやおくの田植えうた”  
という句があります。機械で田植えをす  
る時代です。芭蕉が詠んだ風景など望む  
べくありませんが、梅雨の到来です。

新型インフルエンザには驚かされまし  
た。神戸の高校生が発症して以来、施設  
でも感染防止が大きな課題となりました  
。まず職員が外から持ち込まないため  
うがい・手洗い・マスク着用そして施設  
内部の消毒を徹底しました。職員だけ  
なく、家族も含め咳・発熱等インフルエ  
ンザらしき症状が出た場合には、出勤せ  
ず電話にて報告し判断を仰ぐよう指示も  
しました。デイサービス利用のご家族に  
は、18日から22日までの休所をお知らせ  
し、ご理解をいただきました。おおぞら  
分教室も休校となりました。子どもたち  
には休みという事実だけが大切で、職員  
の心配をよそに、施設のなかで元気をほ  
じけさせていました。

デイサービスも新年度になって利用児  
が2名増え、合計7名の登録者になりま  
した。常時7名の利用には至りませんが、

多いときには6名の利用児がおられま  
す。利用児が増えると集団の雰囲気も  
変わります。お互いが違った刺激を受  
けながら新しい友達関係が自然につく  
られて行きます。一方職員も、処遇場  
面で人手が必要になり、送迎でも車と  
人手がいることになりました。

入所の子供たちは、毎日朝の会、夕  
の会というミーティングを行っています  
。朝の会では、一日の自分のすべき  
ことを、夕の会では、一日にあったこ  
とをみんなの前で発表します。話の内  
容は幼くても、自分の思いを言葉にし  
て、みんなの前でしゃべることは、子  
どもたちに緊張感とやりとげること  
の達成感と自信を育てているようで  
す。話す内容もさることながら、子供  
たちの言葉が豊富になっていくことは  
驚くほどだそうです。言葉は、子ども  
たちの成長のバロメーターということ  
を改めて知らされます。

朝、全員でエイエイオー！と闘（と  
き）の声を上げて、元気に登校してい  
く子どもたちの姿は、過去1年間の療  
育の形を見る思いです。

## 「おおぞら分教室との交流」

支援員 中村 由美子

おおぞらのいえには、教育機関として兵庫県立のじぎく特別支援学校おおぞら分教室が併設されています。今年4月からは幼稚園1名、小学部4名、高等部2名、計7名の利用者が分教室へ毎日元気に登校しています。利用者は分教室で学習の他に、校外歩行、移動図書館、地域の人々や近隣の学校との交流等さまざまな体験をしています。

5月8日は春の遠足で王子動物園へ行ってきました。分教室に在籍している利用者は学校行事として先生方と、施設の保育児童は施設職員と一緒にきました。お天気が心配でしたが、当日は天候にも恵まれ、皆でたくさんの動物とふれあうことができました。また、職員との交流をさらに深めることができ、楽しい一日を過ごすことができました。分教室では参観日が定期的に実施されており、利用児の保護者はもちろん、施設の職員も見学に行きます。ここでは、先生の話や聞く真剣な表情等、施設では見せない児童の一面を見ることが出来ます。これからもおおぞら分教室と連携して療育に取り組みたいと考えています。

## 「元気に楽しんでいませう」

児童デイサービス「

保育士 孝田 美佳

新年度が始まり、デイサービスでは、3月末より4名のお友達が増えました。

涙の来所がお決まりだった子どもたちも、今では「ニコ」笑顔。

来所する「〇〇ちゃんは？」と確認する子どもや「かわいいね」と年下のお友達に話しかける姿・・・少しずつ新しい友達関係ができてきているようです。

また、お友達が増えたことにより、行事もにぎやかになりました。4月は親子で王塚公園にてお花見をしました。天気も良く桜も満開で最高のお花見日和でした。

5月は、こいのぼり会をしました。こいのぼりの歌をうたっている・・・♪♪大きなこいのぼりが登場！そのこいのぼりを使って、外で『こどもの日サーキット』をして元気いっぱい遊びました。

日に日に気温も高くなり水遊びや夏ならではの遊びが増えていきます。今後も様々な経験により子どもたちの成長につなげていけたらと思っています。



迫力満点!! おおきい~!!



タンタンといっしょにハイチーズ☆



おべんと♪  
おべんと♪  
みんなで  
たべると  
おいしいね

おおぞらの子どもたち!  
みんながんばってます♪

褥瘡の  
じよくそう

ケアに

ついて

看護師 山中 ふじえ



褥瘡は、皮膚圧迫やすれにより血行が遮断され、そのような状態が長時間あるいは繰り返されることにより、皮膚に栄養障害が起き発生します。褥瘡ができると、通常の学校生活も中断せざるをえなくなり、病院や自宅療養下での治療生活を余儀なくされます。

おおぞらのいえにも褥瘡治療をおこないながら、施設の生活を送っている方がいます。現在、おおぞらのいえの看護師は、かかりつけ医の指示のもと除圧、スキンケア、栄養管理を提供するとともに、併設する「おおぞら分教室」との連携によるベッド登校を実施し、治療にむけた看護を実践しています。

また、県立リハビリテーション中央病院小児整形医の診察や理学療法士の指導を受け、車椅子の座圧測定等で褥瘡の原因を探りながら日常的に車椅子での移動方法のトレーニングを継続することで、褥瘡予防にも取り組んでいます。

大きな褥瘡治療には時間がかかりますが、学校生活と治療を両立し、入所児や施設職員とのふれあいの中、社会経験を広げてもらえる様、取り組みを進めていきたいと思っています。

